**日本人が議論できない理由と議論できるようになる方法**

そもそも、議論とは、自分の意見を言ったり、誰かの意見を批評（良い点や悪い点を指摘）するのが議論であり、和を乱さない事を大切にする日本人と言う国民には向かない物なんです。

そして「日本人は議論になると感情的になる」とよく言われますが、恐らく感情的になる瞬間と言うのは、意見を反対されたりした時。反対意見と言うのは一種の衝突であり、集団主義ではあるまじき、個の生存率に関わる不安定で危機的な状況なので、自分を守ろうとする感情的な本能が強くなり（脳科学におけるシステム１）、論理的に考えを言う（脳科学におけるシステム２）事が出来なくなるのでしょう。

さらに、同じく集団主義である他のアジア国と比べても、日本人の方が議論が出来ないのは、恐怖遺伝子の影響が強いと仮説します。恐怖遺伝子とはその名の通り、恐怖を感じやすい事を言いまして、恐怖を感じやすいと言う事は、ノーベル経済学賞を受賞したダニエル・カーネマンが提唱する脳科学におけるシステム１とシステム２、システム１は感情的でシステム２は論理的、のシステム１に該当するわけで、日本人は恐怖遺伝子によりシステム１が作動して感情的になってしまいがちと言った所でしょう。

と言う事で、集団主義と言う日本の文化と生物学的に日本人の多くが持ち合わせている恐怖遺伝子のコンボによって、日本人は議論が出来ないと言えるのではないでしょうか？

さて、議論できるようになる方法ですが、そもそも、別に議論しなくても良いんじゃないか？と私は思うわけです。組織における最も有能な人間の言う事を聞いている方が日本文化に合っていて、組織がより機能する事が多くなると思うわけです（リー・クアンユー氏とチャーリー・マンガー氏の哲学）。

それでも議論をしたいのなら、

・議論の形式を変える事（群集心理を避けるために、案が匿名になるようにしたり）

・考え方を変える事（相手の意見を納得するつもり、好きになるつもりで聞いたり）

・言い方を変える事（「でも」と言ったり、相手の意見を否定しないように）

と言うように色んな方法があるでしょう。

私個人としては、メタファーを使うのが最も効果的だと感じています。要するに、頭の中で議論を他の何かに置き換えると言う事です。議論と言えば決闘で、昔の私は相手を完膚なきまでに刺し続ける事だけを考えていましたが、今の私は議論を「誰かと一緒に作るドミノアート」と捉えています。このメタファーにより、慎重に協力しして価値を作り上げると言うマインドセットに自分の考え方が変わったのを感じていまして、議論する時にシステム１が作動する事が少なくなったのも感じています。

まあ、ドミノアートなんぞ戯言を吐いたものですが、私を含めた日本人の多くの根本は所詮は、人斬り抜刀齋。感情的に斬りかかるのは人間らしくて、楽しくて良い事。と言う事で、やっぱり現状維持、侍ジャパンのままで行きましょうよ！